

のぼりバツ

広報



特集

◆第4次総合計画

基本構想の素案

◆きらり

全国ジュニアオリンピックク

水泳大会出場

中山明久さん

7/1
1995
No.537

ふれあい交流都市 のほりべつ

— まちづくりのキャッチフレーズ —



基本構想名は……

登別ゆめままち構想

新しい総合計画・基本構想(素案)

市では、これまで新しい総合計画づくりにあたっては、「市民の皆さんとともにづくりあげること」を基本に、計画策定段階から市民の皆さんに積極的に参加いただき、幅広い意見や提言をいただいできました。

市民の皆さんの思い描く夢を将来像として新しい総合計画の基本構想に反映するため、素案の策定作業をすすめてきましたが、ほほまとまりましたので、前号に引き続き、概要をお知らせします。この構想案についてのご意見やご感想をお寄せください。

—— まちのぞむ —— 夢が実現するまち

市民とともに築きあげた将来像を中心に、この構想は、「登別ゆめままち構想」としてまとめられています。

この構想名は、可能な限り遠い将来に思いをはせ、私たちが理想とするまちの姿や暮らしのあり方を思い描いて、これから実現する日を「まちのぞむ」思いや市民一人ひとりの「夢が実現するまち」との意味が込められています。

まちづくりの理念

「まちづくりの理念」は、「登別ゆめままち構想」において実現しよう

うとするこれからのまちづくりにおける統一テーマとして設定されています。

遠い将来において私たちが目指す都市像を表すものであると同時にまちづくりにおける市民共通のテーマです。

人が輝き まちがときめく ふれあい交流都市 のほりべつをキャッチフレーズに「市民一人ひとりの価値観とライフスタイルが尊重され、市民生活のすべての分野にわたって豊かさや充実した生が実現できるまち」をこれからのまちづくりの基本的なテーマとしています。

新しいまちづくりの視点

「新しいまちづくりの視点」で

人が輝き まちがときめく

は、登別市の今までの歴史を振り返りながら、現状を把握し、夢を語り、将来のあるべきまちの姿を模索する中から形づくられたまちづくりの共通の思いを四つの視点から表しています。

この「新しいまちづくりの視点」は、これからのまちづくりを市民総意ですすめるにあたって、欠かすことのできない共通の思いです。昭和43年（1968年）に定められた「登別市民憲章」とともに、これからのまちづくりをすすめるにあたっての指針の一つとして位置づけられています。

◇「調和と共生のまちづくり」では、「自然との調和、真の豊かさ」「ファミリーゼーション」「男女共生社会」をキーワードに、美しい自然と調和した真に豊かなやすらぎのある生活、心の通いあうあたたかい地域社会の構築と、すべての人が健やかにいきいきと暮らせる地域社会づくりや、健やかに子どもを生育できることができる地域社会づくり、そして女性の力が発揮できる地域社会づくりを重視しています。

◇「交流と連帯のまちづくり」では、「様々な交流」「世界との連帯」「北海道の発展」をキーワードに、国際観光レクリエーション都市を目指す登別市として、国内だけでなく、世界のさまざまな国との結びつきを求め、世界との

連帯の中でまちづくりを目指しています。

◇「創造と挑戦のまちづくり」では、「人づくり」「文化づくり」「歴史づくり」「新たな潮流への挑戦（情報化、技術革新）」をキーワードに、まちは、人のためにあり、人がまちをつくりあげるといった人づくりや次代に伝える文化、歴史の創造を目指すことを重視するとともに、次代には主流となることが予想される情報化や技術革新といった新たな潮流にも積極的にチャレンジすることを重視しています。

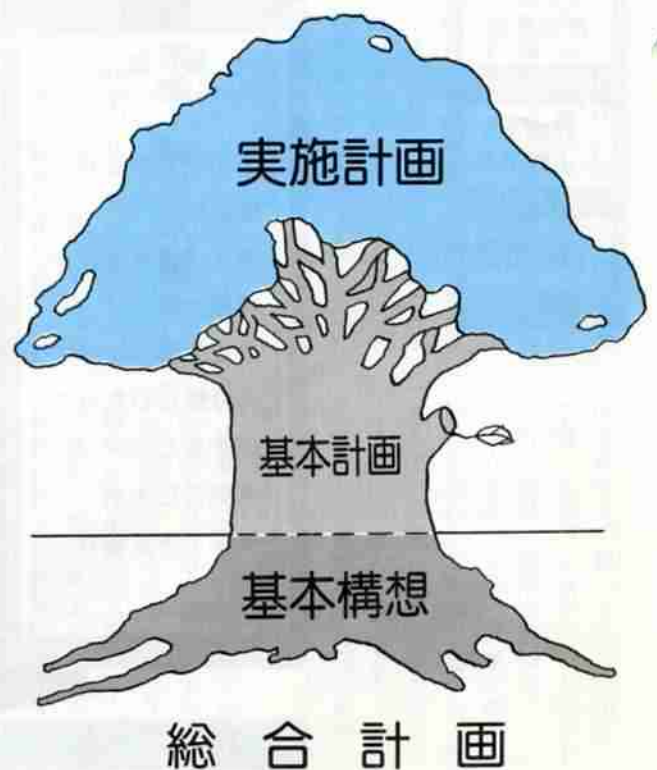
◇「共感と協働のまちづくり」では、「市民行動」「対話」「市民との協働」「共感」をキーワードに、市民一人ひとりの思いや希望が実現されるまちづくりを目指しています。

新しい総合計画

総合計画は、これからの登別市のまちづくりを方向づけるための大切な計画です。

たとえば、私たちは南にすすんでいくべきなのか、北へすすんでいくべきなのか、それとも東にすすんでいくべきなのか、まさに総合計画は、これからの登別市の目指すべき方向性を定める「まちづくりの羅針盤」です。

参考までに、総合計画のしくみを図に表しました。



思い描くまちの輪郭

構想では、遠い将来において思い描くまちの輪郭として、

- 1 構想策定の舞台（登別市の行政区域）
- 2 まちづくり対象人口
- 3 土地利用の基本的な姿（グラウンドデザイン）を設定しています。

◎構想策定の舞台（行政区域）

地方をとりまく環境は、広域行政の取り組みや地方分権論議、中核都市の建設など、大きな変化が予測されます。

登別市が今後の地方制度のなかでどう位置づけられるのかを推測

することは非常にむずかしい状況にあります。

市民総意で取り組むまちづくりは、行政区域の変動や地方制度の変更にかかわらず、何よりもまず、連帯感あふれる市民の営みが基礎となるものと考えます。

構想では、将来あるべき姿を構想する舞台としての行政区域の設定を当面、現行の区域としています。

◎まちづくり対象人口

登別市の将来人口は、過去の人口推移から見る限り横ばいあるいは減少が予想されます。

また、遠い将来においての人口の推計は、激しく変動する時代状

況の中にあつて、極めて不安定な要素が多く、明確に計量し、見通すことは非常に困難です。

過去における「目標人口」といった考え方は、人口をまちの将来像実現のための一つの指標として位置づけてきた経緯があり、高度経済成長時代の発展方向を強く意識したものと言えます。

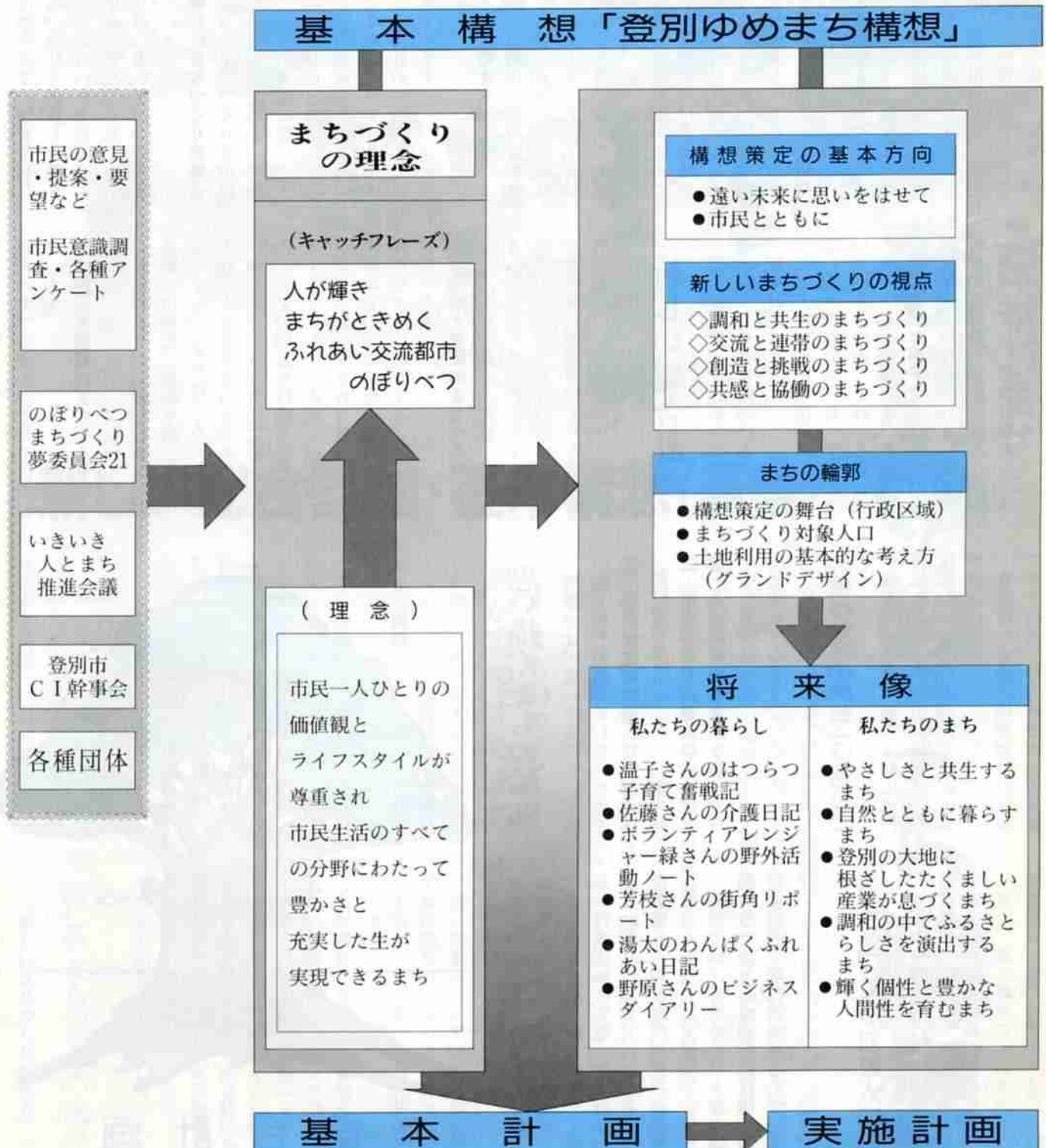
いま、人々の意識はモノの豊かさの追及や経済効率優先の視点から心の豊かさや生活の質を重視する傾向をみせています。

このような変化の中から、構想では、まちづくり対象人口を次の視点から考えています。

- まちづくり対象人口は、到達目標として数値化するものではなく、まちの規模を表す一つの目安であること。
- 定住人口のみならず、一時的に観光や商用などで市外から訪れる人、いわゆる「交流人口」をも視野に入れるものであること。
- そのときどきの経済情勢や社会状況の変化に柔軟に対応するため常に可変的な要素を加味するものであること。

これらのことを踏まえて、構想では、定住者に来訪者を加え、幅をもたせた「まちづくり対象人口」を想定しています。

基本構想「登別ゆめまち構想」(素案)の構成



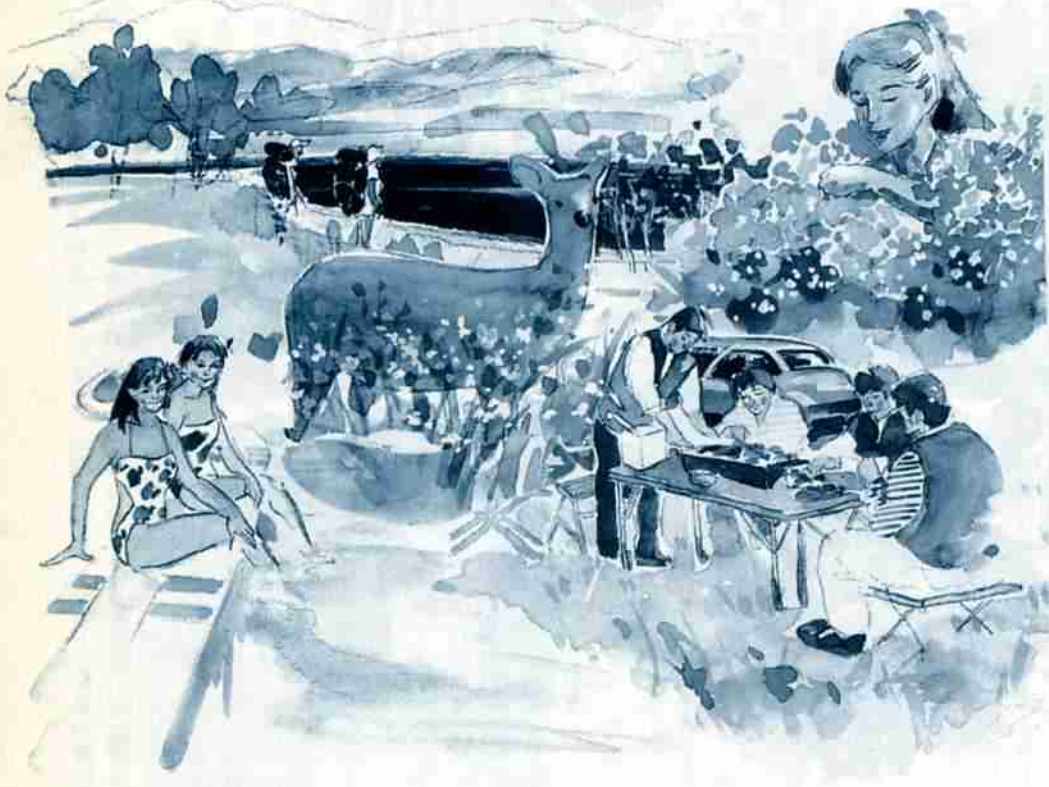
67,000人〜75,000人
 (定住人口は、57,000人
 60,000人)
 交流人口は、10,000人
 15,000人としています。)

◎土地利用の基本的な姿
 (プラン・デザイン)

将来のあるべきまちの姿を思い描くうえで、限られた土地をどう活用していくかは重要な課題です。土地は、将来にわたっての貴重な資源であるとともに「住み」「働き」「学び」「憩い」「遊ぶ」ための市民共通の基盤です。土地は、土地のもつ社会的、経済的及び文化的要件を十分に考慮しながら総合的かつ計画的に利用しなければなりません。構想では、市民が快適で文化的な生活をおくることのできる舞台として将来の土地のあり方を5つのエリアとして思い描いています。

☆生活創造域 (快適な生活空間を創造するために利用されるエリア(地域))
 高度で機能的な都市環境が保持されるべき地域で、産業業務機能や住居機能が集中して整備される地域

☆特定利用域 (快適な市民生活を維持するために不可欠な施設の立地に利用されるエリア)
 都市的機能の調和を図るため自然環境を十分に配慮しながら利用



されるべき地域で、健全な都市活動の発展に不可欠な都市施設が特定の整備される地域

☆自然利用域 (自然の恵みを活用した産業活動のために利用されるエリア)
 海、森林、大地など豊かな自然の恵みの活用を通して多彩な生産、余暇活動が展開される地域で、自然と共生し

ながら生産基盤の整備が図られる地域

☆観光レクリエーション利用域 (住む人や訪れる人にやさしい観光地づくりに利用されるエリア)
 人と自然にやさしく様々な表情がいきいきと伝わる観光地づくりをすべき地域で、時代とともに変化し増大する観光ニ

【将来像—私たちの暮らしたい】

ズに適切に対応でき得る観光拠点の集積が図られる地域

☆自然共生域 (自然を利用又は保全するエリア)
 優れた自然が賦存する地域においてワイズユース(自然の賢明な利用・活用)の理念を基本として、暮らしと自然との調和を図るとともに、積極的に自然環境や生態系の保全を図るべき地域

遠い将来、私たちの暮らしは、どのようなようになっていくのでしょうか。ここでは、皆さんから寄せられた夢や期待をもとに、私たちが達成しようとする望ましい市民生活の姿や暮らしの風景を、具体的な登場人物を通して6つのお話して参りました。

(この6つのお話は、全部で24ページものです。スペースが少ないことから、全てを紹介できませんので、その概要をお知らせします。)

本当は、このお話しより、もっとすてきな暮らしが実現するかも知れませんが、なかには、夢と思われることも入っているかもしれません。

いずれにしても、ここで描かれた暮らしを実現するために努力することが必要と考えています。

●温子さんのほつらつ子育て奮闘記
 東京生まれの温子さんは、登別の

生まれの夫、泉さんと間に、7歳、4歳、1歳半の3人の子をもち、育児に仕事に奮闘中。

このお話では、将来の登別の子供を安心して生み、健やかに育てることができ環境づくりについて、温子さん、泉さん、そして3人の子供たちの暮らしを通して描いています。

●佐藤さんの介護日記
 佐藤平成さん75歳。10年前市内の企業を退職し、妻の祐実さん(73歳)と2人暮らし。2年前、祐実さんが病気で倒れて以来、介護をしています。スポーツボランティアや旅行を生きがいに充実した暮らしを送っています。

このお話では、将来の登別の高齢化対策や多様化する福祉ニーズに対応するシステムなど、佐藤さんの介護日記を通して描いています。

●ボランティア・レンジャー
 緑さんの野外活動ノート
 野原 緑さん25歳。市内の銀行に勤めながら、ボランティアレンジャーとして活躍中。
 ボランティアレンジャーの道を選んだのは、登別の自然が大好きで、その自然を豊かなまま次世代に引き継ぐため。

このお話では、将来の登別の自然とともに暮らすまちの風景を、緑さんのボランティアレンジャー活動を通して描いています。

●芳枝さんの街角リポート

沢口芳枝さん45歳。訪問看護ステーションに看護婦として勤務するかたわらリサイクルセンターの運営委員として活躍。

この芳枝さんたちのリサイクル運動を視察するため神奈川県の主



婦グループが登別市を訪れることになり、当日の事例発表者として芳枝さんに白羽の矢が立ちました。このお話しでは、将来の登別の美しい環境づくりや資源のリサイクルへの取り組みなどについて、芳枝さんの事例発表を通して描い



ています。

●湯太のわんぱくふれあい日記

湯太君。小学6年生。家は代々登別で靴屋を営む老舗。湯太君の父が5代目です。

湯太君は、毎日の出来事を日記に書いています。

登別の6年生は、1年間日記をつけることになっていて、大人が子供の日記のあとに感想を書いてくれることになっています。

このお話しでは、将来の登別の学校教育、社会教育、生涯学習などの取り組みについて、湯太君とお父さんの交換日記を通して描いています。

●野原さんのビジネスダイアリー

野原 洋さん52歳。ボランテイアレンジャー緑さんのお父さん。ウォーターフロント（水辺）創造計画の一環として建設された海洋牧場に勤務。

登別港一帯は、遊覧船埠頭、遊漁船ハーバー（港）、ピアマーケット街（埠頭市場街）などが整備されているほか、近くの海洋生館を中心とした北欧風のテーマパークと連動した海洋レジャー基地として発展しています。

基幹産業である観光とその他の地場産業が有機的に連携し新たなビジネスチャンス（起業機会）が生まれ、力強い地場の産業経済活動が展開されています。

このお話しでは、将来の登別の力強い産業活動などを、野原さん

のビジネスダイアリーを通して描いています。

【将来像—私たちのまち】

遠い将来、登別のまちはどのようなふうになっているのでしょうか。

ここでは、「将来像—私たちの暮らし」が実際に営まれる舞台としての「まち」について、あるべき姿を語る中から、寄せられた将来の夢や期待、様々な意見をもとに、理想とするまちの姿としてイメージしています。

これは、この基本構想において実現しようとする登別のまちの姿です。

（やさしさと共生するまち）

◆市民一人ひとりのライフスタイル（生活様式・暮らしぶり）や価値観が尊重され、常に健康で生きがいのある生活を営める環境づくりがすすむとともに、すべての市民が住み慣れた地域の中で世代や性別などを超えて交流し、共に支え合うふれあい豊かな地域社会が実現しています。

◆個性的で活力あふれる高齢化社会の到来とともに、障害者や自立困難になったお年寄りが、地域社会全体の力であなたかく支援されるシステムが形成されています。

◆市民一人ひとりのライフステージ（人間の一生を段階区分したものに）に応じた健康づくりの体制が整備され、保健と医療が密接に連

携した生涯健康づくりと健康管理システムが確立しています。

◆子供を安心して生み、健やかに育てる環境づくりがすすんでいます。

《自然とともに暮らすまち》

◆自然と調和した美しい環境の中で、災害や事故のない安全な暮らしが確保されています。

◆美しい環境づくりの基本施設である公共下水道が、市内全域で整備され、海洋汚染や河川汚濁の防止体制が確立するとともに、適切な汚水排水処理体制のもと、清潔で衛生的な暮らしが実現しています。

◆資源のリサイクル（再利用）、ごみの適正排出と完全処理が実現し、地球にやさしいライフスタイルが確立しています。

◆自然災害や交通事故など市民の生命、財産を脅かす危険に対する適切な防衛体制の確立とともに、犯罪のない安全な暮らしが実現しています。

《登別の大地に根ざしたたくましい産業が息づくまち》

◆将来の登別では、厚みと広がりを持った観光が名実ともに市の活力を支える基幹産業として成長を遂げ、商工業や農水産業など市内の他の産業と有機的に結びつき表情豊かで力強い産業活動が展開されています。

◆地場の産業では、異業種間において蓄積された技術や独自のノウハウ（物事の進め方、やり方、手順など）に関する専門知識や秘訣の

ことが活発に交換されるなど強い製品開発力や発展力を備えた多様な企業群が出現しています。

◆多彩な企業の立地がすすみ、経済変動や環境変化に強い産業構造のまちとなっています。

《調和のなかでふるさとらしさを演出するまち》

◆空港をはじめとして札幌圏への交通便利性など恵まれた立地条件と登別の豊かな資源を生かして時代に即応した新たな産業が育つ環境づくりがすすんでいます。

◆自然や景観と調和した人間性あふれる都市施設の整備がすすみ、機能的で利便性の高い市民生活が実現しています。

◆高齢者やハンディキャップを持った人々にやさしいノーマライゼーション都市にふさわしい道路、公園、公共施設などの整備がすすめられるとともに、生態系に配慮した川づくり、コミュニティ（地域の連帯感）あふれる住宅の確保など都市基盤の整備がすすんでいます。

◆高度情報化社会に対応できる情報、通信基盤の整備がすすむとともに、地域内、都市間交通の高次のネットワーク（情報・交通網）が形成され、利便性の高い市民生活に加え活発な産業経済活動を支える基盤が整っています。

《輝く個性と豊かな人間性を育むまち》

◆新しい時代を担う子供たちの無限の可能性を伸ばす環境が整うと

ともに、生涯にわたって市民がいきいきと学び続けることのできる生涯学習社会が実現しています。

◆心豊かにたくましく生きるための資質や能力、輝く個性を育むための学校教育と社会教育とが密接に連携し、学校、家庭、地域が一体となった人づくりのシステムが確立しています。

《総合計画》

◆活発な文化活動が展開され、市民の創造力が花開く文化的な都市環境が生まれるとともに、郷土の歴史や文化遺産が積極的に保存、伝承されています。

◆北の温泉文化の中心地である登別の特性を活かした衣、食、住、浴など登別ならではの生活文化が創造されています。

◆市民ニーズに応えたスポーツ施設が各地に整備され、市民は生涯にわたって日常生活の中で自分に適したスポーツに親しみ、健康で活力ある生活を送っています。

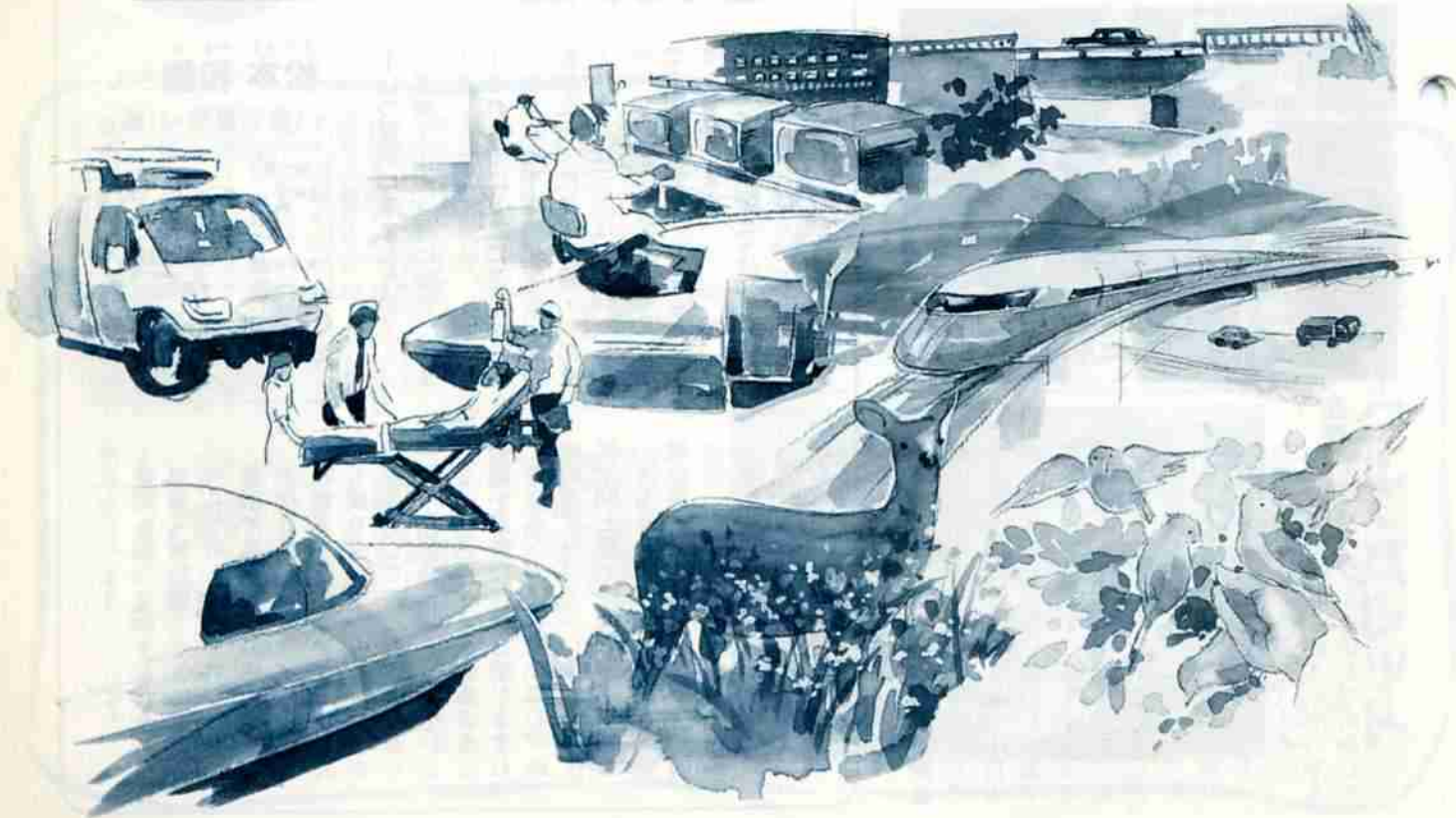
以上のように基本構想の素案をお知らせしましたが、この素案に対する市民の皆さんのご意見やご提言を、これから策定する最終原案に反映していきたいと思えます。

再度、ご意見やご提言をお寄せください。

※この基本構想・素案（全65ページ）については、市役所企画調整室のほか、各支所・図書館に備え付けてあります。

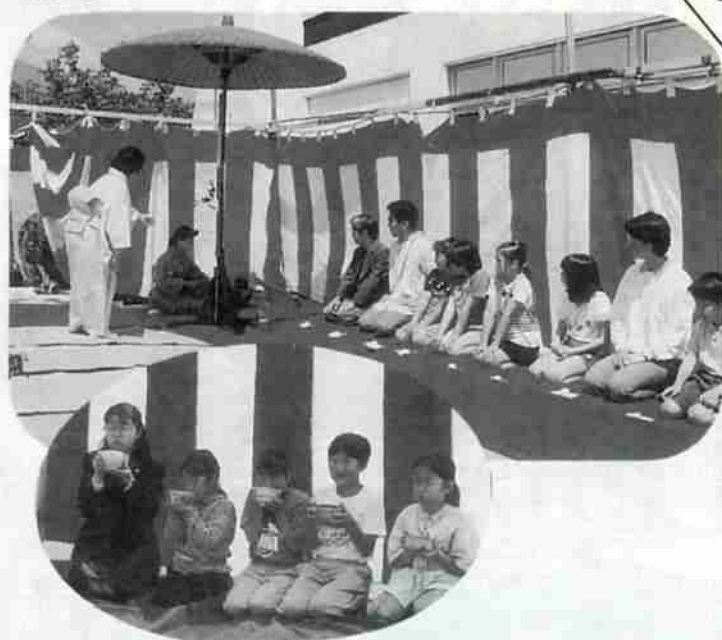
問い合わせ 総務部企画調整室

（総合計画）85-1122内線224





野だて体験



6月10日、郷土資料館の庭で、「野だて」が行われ、青空の下、子どもから大人まで約30名が、茶の湯の風情を楽しみました。

抹茶を飲むのは初めて、という子どもたちは、館長の「茶の湯は日本の伝統文化です」との説明を受けたあと、文化協会茶道部の先生方に、おじぎの仕方から歩き方、お茶のいただき方まで、手取り足取りで教えてもらい、一席終えるころには、おじぎもきちんとできるようになっていました。参加した子どもたちは、「お茶もお菓子も、とってもおいしかったよ」「足がしびれて立てなかつたけど、おもしろかった」と、口々に感想を話していました。

にぎりずむで 恵寿園慰問



6月14日、登別温泉や洞爺湖温泉のホテルや旅館の調理師などをつくる「高和会」のメンバー11人が、お年寄りたちにおいしいおすしをたくさん味わってもらおうと、養護老人ホーム恵寿園を訪れ、にぎりずむのプレゼントをしました。お年寄りたちは、にぎりたてのおすしをほおばり、本物の味に「おいしい」を連発、心のこもったプレゼントに大喜びでした。マグロやエビのにぎりずしや太巻きなど、ひとつひとつかみしめるように味わっていました。

私が見た登別

東洋一の温泉は
魅力ですね。



まつもと かずお
松本 和雄さん
(登別東町・41歳)



「いつ登別に来ましたか？」
平成7年の4月に転勤で来ました。

「それまではどこに？」

生まれは千葉県ですが、父の転勤などで松島・長崎・京都など住まいは5回ほど変わりました。就職してから仕事の関係で全国の町を2・3年ごとに転々としています。

こちらに来るまでは、東京は新宿区飯田橋に住んでおりました。近くには、東京ドームや靖国

神社があります。

「登別を知っていましたか？」

温泉と熊牧場、それに地獄谷が有名な所と知っていました。

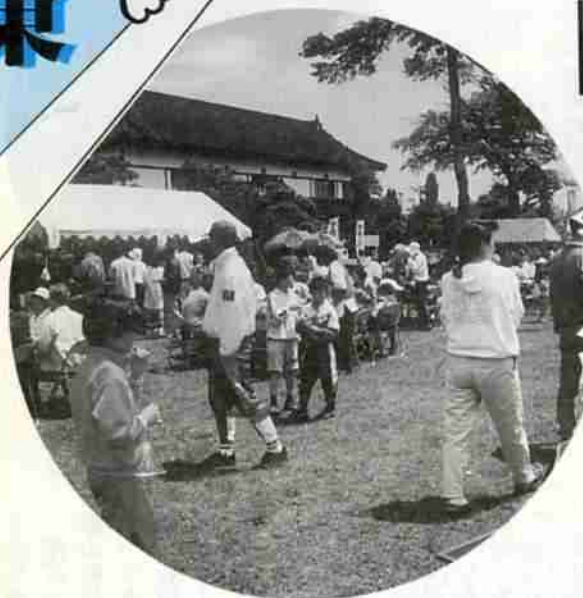
「登別で暮らしての感想は？」

不便さは感じませんが、登別温泉は観光を主体としてお店なんかも成り立っているわけですが、実際生活してみるとベースがどうしても観光客相手になっているので、生活をする側からみると物価が非常に高いと感じますね。そこらへんをもうすこし、地域的な区分けといいますが、生活空間と観光空間との違いをはつきりさせてほしいですね。地域住民に対しては、もっと物価の安いものを提供できると思います。

大好きな温泉にいつでもはいれるのは魅力ですね。

東

奔



第3回 ラブグリーンフェスティバル in KAMEDA

市民の憩いの場となっている亀田記念公園を会場に6月9日から3日間の日程で緑のイベント「第3回ラブグリーンフェスティバル」が開かれ、期間中大勢の家族連れでにぎわいました。

草花や木を販売する「みどりの市」には大勢の園芸ファンが訪れ、ひとつひとつ手に取りながら熱心に品定めをしていました。

また、森林浴を兼ねたウォークラリーや、じゃぶじゃぶ川での金魚すくいなどの楽しいイベントもいっぱいあり、あちこちで子ども達の歓声があがっていました。

巡視船 「えとも」体験乗船



海からふるさと登別を探訪しようとして6月18日、富岸・若草・鷺別小学校の5、6年生が室蘭海上保安部の巡視船「えとも」に体験乗船しました。子ども達は操だ室や通信室など船内の景色を眺めたり、海上からふるさと登別の景色を眺めたり約2時間の航海を楽しみました。

若草小学校6年生の畑田瞬くんは「操だ室を見るのは初めてだけど、機械がいっぱいあるんでびっくりしました。おじさんが機械や海の仕事について分かりやすく説明してくれたので、とても勉強になりました。それから、眺めも最高でした」とうれしそうに話してくれました。

仲間たち



楽しみながら絵画を

絵画サークル・パレット

会長 吉沢 弘さん

(☎86)7414



絵画サークル・パレットは、「絵を気軽に習うことのできる機会づくりを」と昭和60年に結成され、今年で10周年を迎えました。

会員は、40代から70代までの男女17名で、市民会館の大会議室において、月2回の活動を続けています。

会員は初心者が多いため、技術を磨くのではなく、会員相互の親睦を深め、絵を通じた人の輪を広げることを目的としています。

1回の活動時間はおよそ2時間半で、モデルとなるガラスピナや置物を置き、それぞれ好きなものをデッサンし、色付けをしていきます。水彩画を描く人で、月に約1枚の絵を仕上げているそうです。

また、新年会などの会合や、年2回の写生会、サークル展などの展覧会を開き、親睦を深めています。

現在、美術協会に所属している会員3名が指導にあたり、いますが、会員同士でもアドバイスし合い、和気あいあいとした雰囲気の中、筆を走らせていました。

指導にあたっては、会員の一人、滝本益男さんは「初心者だった人が、年々上手になっていくのは、とてもうれしいことですね。会員の親睦を第一に考えていますので、みなさん楽しみながら絵を描いています。生涯学習の意味からも、老後の趣味・楽しみとして続けてもらいたいです」と、話してくれました。

わたしの趣味

写真



いしだ 茂さん
石田 茂さん
(幌別町)

石田さんが、釧山町の自然を撮り始めたのは2年ほど前。

登山が趣味の石田さんは、職場の山岳部に所属していた頃から、山登りの記録のために写真を撮り始めたのが、きっかけだそうです。

当時は、地球岬や室蘭岳の風景を中心に撮影していましたが、退職後、釧山町の自然に魅せられて、現在は、毎日のように通っているそうです。

「釧山町は、まだ、手付かずの自然が残っていていいですね。すばらしいところですよ。」

石田さんの撮影した写真は、釧山町の自然のすばらしさを、十分に伝えるものでした。

「季節や天候によって、まったく違った表情が現れるので、それを写真に納めるのは難しいですね。でも、もう二度と撮れないような景色が写っていたときは、何とも言えない喜びがあります」とうれしそうに話し



▲市営牧場から見た室蘭岳 (石田さん撮影)

てくれました。

手付かずの自然がまだ残っている釧山町にも、最近では、人や車が多く入ってきており、そのゴミの多さには、石田さんも困惑しているとか。撮影しようとする構図が決まったら、まず、ゴミ拾いをするそうです。ゴミ拾いだけで終わってしまうこともあるほど。「写真の中にゴミが1つでもあると、それだけでおしまいです。だから、できあがった写真の中にゴミを見つけて、撮り直しに行ったこともありますよ。自然を守る意味でも、ゴミは必ず持ち帰るようにしてほしいですね。」

釧山町の自然を撮影した作品は、まだ、数が少ないそうですが、このまま撮り続けて、50点ほどになったら、市内で個展を開きたいと、目標を語ってくれました。

ゆけむりネットワーク 登別応援団

夢ある登別へ



ほんだ りゅういち
本多 隆一さん
(東京都葛飾区在住)

昭和33年登別温泉中学校卒業
青年のジェット第1回隊員。
現在、山田特許事務所(昭和5
年創立の日本屈指の老舗特許
事務所)の商標・秘書グル
ープ部長。
東京登別げんきかい幹事。

地下鉄サリン事件発生以来、ごく普通の日常生活をしていますが、このような災厄がわが身にも起こり得る大都市東京で生活していると、平和な登別が恋しく思われなくなりません。

山・海・湖・川そして温泉・雄大な大自然に恵まれた故郷登別。その登別へ、先日、久しぶりに帰省し、「登別マリニパークニクスなどを目のあたりにして、登別の経済活動が大きく活性化しているのに驚きました。」

登別は、今、アミューズメントリゾートを目指しているようですが、私も登別出身者として大いに応援したいと思っています。

これは、夢のまた夢になるかもしれないませんが、地元の人達はもとより、全国の老若男女が気楽に利用できる今までにはない新しい「テーマパーク」、例えば、厳冬期でも、野球、その他のスポーツができる超大型の全天候型のドームを造るのはいかがでしょうか。そのド



▲夢が現実になった登別マリニパーク

ームの中には、公園、そして、冬でも自由に泳げて釣りもできる川や海もあります。
こんな施設ができれば地域開発の目玉になり、登別に経済的な効果だけでなく、観光宣伝上の効果ももたらす、冬の登別のイメージが一変するのではないのでしょうか。
「夢のまた夢」が実現されることを遠い東京より楽しみにしております。

カルルス町を訪ねて(1)

川上の温泉・ペンケユ



▲大正7年頃のカルルス温泉の浴場

来馬岳・オロフレ山・加車山などの美しい山々の外輪に囲まれたカルルス町は、千歳川の溪流が中央を流れ、冬の樹氷、春の芽が一齐にふきだす若葉の頃、新緑の夏、紅葉の秋と、静寂な中で何時訪ねても美しい自然に触れあうこと出来る素晴らしい温泉の町です。カルルスの地名は、本来のものでなく、昔、アイヌの人達は「ペ

ンケネセ」和訳で「小川の床」とよんでいました。ペンケネセのペンケは川上という意味で、「ペンケユ」は川上の温泉のカルルス温泉。川下の温泉は「パンケユ」の意味で登別温泉を云います。道内にペンケ、パンケの地名も多いが同様の意味です。「ネセ」は、知里真志保の地名辞典に「深山にあって川岸に被さるように出ている崖」の意味で「小川の床」とはかなり異なりますが次のイソクテという人の登別地方の伝説で頷けるようです。「登別地方で狩りの上手な若者が此の辺りにシカ狩りに出かけ、誤って崖下に落ちて重傷を負ったので帰ることが出来ない。身体も

疲れきったが小川に下りたところそこに温泉の湯がコンコンと湧き出ている。喜んで早速お湯に入ったが、疲労と湯のあまりの心地良さにうとうとと眠ってしまった。一方コタンでは、帰って来ないので心配し、大勢で探していたが、やっと3日めに、湯につかってくつすり眠っている彼を発見した。助けられた若者は嬉しさのあまりコタンの人に抱きついたが、不思議なことにはひどい傷も治っていたのである」と云うお話しです。「ペンケネセ」を「小川の床」と云った意味を考える場合、伝説の方が頷けるような気がします。いずれにせよ、アイヌの人達はここに温泉のあることを古くから知っていたのでしよう。近代になり、カルルス温泉を発見した人に次の3名がおります。片倉家の旧家老、日野愛意が前記のイソクテと共に輪西屯田用地の調査測量で道庁から来た技師を案内した時、明治19年に発見した。また、日野愛意の養子、日野久橋が、樹の種類調査でペンケネセを訪れた明治22年(1889)に発見した。あとの1人は、幌別郡輪西村の屯田兵村に寄留していた市田重太郎で、鉱山探索中の明治27年頃発見したと云います。温泉経営の出願をして道庁から許可をうけたのが、当時薬剤師の取

り扱いをしていた市田重太郎です。最初の旅館は、明治32年、温泉発見に関わりのある日野久橋と、市田の共同経営で、1棟5部屋の旅館と浴場が建てられたが、これがカルルス温泉開発のはじめです。この時から、ペンケネセの地名をカルルスと呼ぶようになったが理由は、当時チエコスロバキアの西端にあるカルルスバードの泉質がラジウムなどを含み、これとよく似た泉質からカルルス、カルルスに命名したと云われます。では、カルルスの名付け親は誰かという、薬剤師に知識のあった市田重太郎と、片倉家の旧家老、齊藤良知の長男、平治が、札幌一中(現在の札幌南高校)の英語教師であった知識から命名したのではないか、とも云われております。また、カルルスの名称で次のような来歴を聞く機会がありました。4年前、ドイツの有名な港町、ブレーメンの美術大学教授カールス・グロイネ夫妻が、洞爺湖の友人の別荘で3か月程滞在し、カルルス温泉に案内した折のことです。当然、チエコのカルルスとカルルスが話題になったが「実はドイツがプロシヤ時代の時、私の先代カールス家の名を付けたものです」と云われて本当に驚いた。謂わばカルルスの地名は、プロシヤの名門貴族の名稱であったわけですね。

キラリ

全国ジュニアオリンピック

水泳大会出場

中山 明久 さん
(新生町・15歳)



5月13日、札幌で開かれた北海道ジュニア室内選手権水泳大会において、登別南高校一年の中山明久さんが50m自由形でジュニアオリンピック出場の標準タイムを突破、25秒17の好記録で全国大会出場切符を獲得しました。

ジュニアオリンピック大会は、日本選手権に次ぎ国体にならぶ大きな大会で、日本選手権の登竜門といわれています。

全国大会にむけて練習に励む中山さんに話を聞きました。

—水泳はいつごろから始めましたか
幼稚園の年長の頃から水泳を習い始めましたが、本格的に始めたのは小学校4年生からです。

—一日どのくらい練習していますか
2〜3時間は練習しています。5千回は泳いでいます。

—大会の感想を聞かせてください
スタートに失敗したけど、最後まであきらめず集中して泳げました。いい記録が出ると思いませんでしたので、コーチから

「明久、標準記録をきったぞ」と聞いたときはビックリしました。練習での記録はあまりよくなかったのですが、とてもうれしかったです。

「将来の夢は」との質問に、オリンピックに出場してみたいですねと、はにかみながら話してくれました。

身長167cm体重51kgとスイマーとしては小柄であるが、ダイナミックで迫力ある泳ぎは力強く、大きく見えました。

8月26日
から岡山県

で開催される全国大会でも自分の力を出し切り、悔いの残らないよう頑張っほしいと思います。



▲全国大会に向け練習に励む中山さん

フレッシュな女性

北海道の魅力に取り付かれ、大阪から登別の病院に来て4年目を迎えた圭子さん。現在、整形外科病棟の看護婦として元気一杯がんばっています。

—看護婦になったきっかけは？

高校時代、ボランティアサークルに入っていて、その活動をとおして、人とのふれあいとか、人のやさしさを大切に生きることの喜びを感じて、看護婦の道をめざしました。

—看護婦になって良かったことは？

患者さんが元気に退院してくれた姿を見た時、やっけて良かったなと感じます。—逆に大変なことは？

いろいろな年齢層の人と接しなければ

なりませんので対応の難しさを感じます。

—今、いちばん興味を持っていることは？
マリンスポーツや、山登りなどのアウトドアスポーツですね。先日、洞爺湖にチップつりに行ってきました。山菜採りも行くんですよ。

—登別市に住んでみての感想は？

自然があって、心にゆとりの持てる場所があって「ひと呼吸おける場所」という感じがして、その雰囲気が好きです。

—登別市に望むことは？

マリパークや時代村などのテーマパークが出来ましたけれど、ひと呼吸おける場所を残したまま、いろいろな開発を進めて頂ければいいなと思います。

《市民リポーター 鎌田 恵子》



だん けい こ
團 圭子 さん

登別本町・26歳 登別厚生年金病院勤務

まのひろがる

〔登子連30周年記念事業〕

フルートレインで行く『砂川子どもの国』



登別市子ども会育成連絡協議会は、創立30周年を記念し、フルートレインで行く『砂川子どもの国』を実施します。

▽月日 7月30日(日)

▽出発時刻 鷺別駅 7時、幌別駅 7時7分、登別駅7時14分

(帰りは、登別駅18時18分着、幌別駅18時23分着、鷺別駅18時30分着となります)

▽参加料 大人 4,000円、

中学生 3,000円、小学生

2,500円、幼児(4歳以上)

500円

(保険料・入園料を含む)

※昼食は、各自ご用意ください。
▽問い合わせ 登子連事務局
大科さん(☎4819)
※申込用紙は、教育委員会社会教育課及び各支所にあります。

第43回胆振管内婦人大会

胆振管内婦人団体連絡協議会は、広い心で友情の輪を広め、生涯学習の実践者として婦人の役割を認識することを目的に、第43回婦人大会を開きます。多数の参加をお待ちしています。

▽日時 8月4日(金) 10時から15時まで

▽場所 市民会館

▽対象 胆振管内の女性

▽内容 記念講演、シンポジウム

▽参加料 600円(昼食代含む)

▽申し込み 7月20日(木)まで

に市民会館内「第43回胆振管内婦人大会実行委員会」宛、申し

申込みください。
▽問い合わせ 実行委員会
今田さん(☎2590)

交通事故巡回相談を行います

北海道は、交通事故による被害者等の援護活動の促進を図るため、適切な指導助言を行うことを目的として、平成7年度第1回交通事故巡回相談を行います。

▽日時 7月14日(金) 10時から15時まで

▽場所 胆振支庁1階「福祉ふれあいの室」(室蘭市幸町9-11)

▽問い合わせ 胆振支庁総務課

(☎29131 内線2124)

※年3回開催を予定しております。

若草こ線人道橋

通行止のおしらせ

若草こ線人道橋整備工事のため、次の期間通行止めになります。

▽期間 7月25日(火)から10月6日(金)まで
▽問い合わせ 土木課
(☎3260)

夏の交通安全運動

7月11日(火)～7月20日(木)

7月11日から7月20日までの10日間、夏の交通安全運動が実施されます。市民の皆さんのご協力をお願いします。

運動の重点目標

○観光・行業に伴う交通事故防止

○歩行者と自転車利用者(特に子ども)の交通事故防止

○スピードの出し過ぎなど無謀運転の防止

○シートベルトの着用の徹底

参議院議員選挙の投票日は7月23日(日)です

“大切なあなたの一票を国政へ”

忘れずに投票しましょう。

▷選挙期日の公示日 7月6日(木)

▷投票日 7月23日(日)

▷登別市で投票できる方

今回の選挙で投票できる方は、次の方です

◎平成7年4月5日までに転入届けをし、引き続き住所を有している方

◎昭和50年7月24日までに生まれた方で、上記の住所要件を有している方

▷入場券について 入場券はハガキで送られ、1枚に2名まで記載されています

▷不在者投票について

◎期間 7月6日(木)～7月22日(出)

◎時間 8:30～17:00

◎場所 選挙管理委員会(市役所第2庁舎)で投票できます

※印鑑と入場券(届いている場合)を持参ください。

▷問い合わせ 選挙管理委員会

(☎9143)

となりまち ホットライン



室蘭・直江津間フェリー就航50周年記念「上越市(新潟県)の観光と物産展」

▽日時 7月(日)～(日) 10時～20時

▽場所 長崎屋中島店1階いきいきプラザ

▽販売品目 コシヒカリ、ちまき、翁あめ、おかし、昆布茶、かまぼこ、餅、野沢菜漬、酒など

▽実演販売 さつまいも揚げ、笹だんご、雪下駄、桐下駄

▽お楽しみ抽選会 期間中、お買い上げ1,000円以上1回の抽選会開催

上越市各種特産品

▽餅つき大会 つきたての餅をその場で試食(日)～(日)ともに15時から先着順

▽問い合わせ 室蘭市商工振興室 (☎2920)

伊達市



若手音楽家のさわやかな演奏

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

「P.M.F室内アンサンブル演奏会」

うらびよし



観察の池にニジマスの稚魚放流

青葉小学校の1年生33名が、同校裏手にある自然観察の池にニジマスの稚魚約500匹を放流しました。いけすで発泡スチロールのおわんに稚魚を入れてもらった児童は、おわんの中で元気に動く稚魚に驚きながら、こぼれないように慎重に池まで運び、成長を願いながら「大きく育ってね」と小さな命をいたわるようにおわんを傾け、放流しました。

人のうごき

- 人口 57,257(+42)
- 世帯 22,538(+31)
- ()は前月比

平成7年5月末日現在

鳥名 アオサギ(夏鳥)
観察時期 4月~10月



(文・写真提供 日本野鳥の会会員ヨシキリの会)
●問い合わせ 伴野さん (☎85-7515)

ボクはアオサギ。ひとりでぼっちで暮らして早一年。すい弱して動けなくなっていたボクを人間が保護してくれて、洞爺村から幌別川に運んできてくれたんだ。元気だったら、秋には仲間と南の方に帰る予定だったけど、体力もないし、一羽ぼっちだろう、あきらめて居残ったんだ。

幌別の初めての冬は、横目で白鳥君の家族の団らんを見ながら、吹雪にも耐えたよ。寒い日々は中洲のアシ原で、長い首をすくめて彫刻のように動かない日々が続いたなあ。冬の幌別川はエサの魚もいるし安心してたんだけど、昨年は水流不足で川が氷って、なんと魚が大量の酸欠死。ボクは真っ青になって、本当の青サギになってしまったよ。まちごかれた春が来て、幌別川に仲間の姿が見られた時はうれしかったよ。すんなり長い足に、青味を帯びた灰色の体がゆったり歩いたり、はばいたり優雅な仕草は相変わらずだなあ。

ボクも外見が気になる年頃だけど、他の仲間より小柄で、病気のせいかな、体の艶もいまいちなんだよね。

幌別もステキな所だけど、早く元氣になって、仲間といっしょに旅がしたいんだ。

